

「出前講座」～富山県立桜井高等学校～



北陸地方整備局では、建設界の担い手不足に対し、建設関係団体、教育機関、関係行政機関等が一体となり、担い手の確保・育成の取り組みを推進することを目的とし、「北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会」を平成26年度に設立しました。当協議会では、現場見学や実習等を通じて、土木のスケール感や先輩から魅力を直接聞くことができる活動を行っています。

6月は
土砂災害防止月間
みんなで防ごう土砂災害

今回、その活動の一環として、土砂災害防止月間に併せ、桜井高等学校(黒部市三日市)の土木科3年生の生徒を対象とした「出前講座」を実施しました。

●講座の概要

日時:平成27年6月19日(金)8時55分～10時45分

場所:富山県立桜井高等学校 土木棟 3F製図室

対象者:土木科3年生41名

説明者:立山砂防事務所及び黒部河川事務所の職員

●講義内容

- ①自然災害との戦い(立山砂防の事業を中心に)【立山砂防事務所】
- ②日本有数の大規模工事に携わる先輩からの一言【桜井高校OB】
- ③土石流の模型実験【立山砂防事務所】
- ④身近な行政機関の仕事【黒部河川事務所】



自然災害との戦い
立山砂防事務所



土石流模型実験
立山砂防事務所



先輩からの一言
立山砂防事務所

過酷な現場でも…やり甲斐は有る！
出来れば、将来、皆さんと何処かで一緒に仕事がしたい。



全国でも富山県は急流河川が多いんだあ～！

過酷な現場



近景

高低差
約70m～約100m

決して簡単では無い仕事、しかし誰かがやらなきゃいけない！



行政機関の仕事
黒部河川事務所

講座では、富山県内での自然災害との戦い、特に治水に関する防災事業の大切さを学びました。

■今回の講座で3名の学生から感想文を頂きましたので是非ご覧下さい。■

砂防講座を終えて学んだこと

3431 富山哲也

6月19日、砂防出前講座があった。国土交通省の県内での取り組み、県のデータなども学んだ。

国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所の福田さんから、「富山の歴史」、「世界の豪雨による災害状況」、「県内の防災・減災の取り組み」について学んだ。それらの中で私が特に印象に残っているものを挙げようと思う。

まず、富山県内の河川について。県内には1級河川が5つある。このことは知っていたが、これは、全国でもあまりないということを知った。

次に、「あばれ川」と呼ばれた常願寺川についてだ。古くから様々な工事が施されている常願寺川だが、そこには、「佐々成正」や「前田利興」、「ヨハネス・デレーケ」といった人々の工夫された治水法があり、それが現在にも役立っている。

世界でも豪雨災害は数多く起きています。インドネシアで起きた天然ダムの決壊では、死者・行方不明者がいると、少なくすんだのだ。それは、「水位観測ゲイ」と呼ばれる、危険を知らせる装置ができたからだ。満水となり越流する時期が把握できるというものだそう。

県内では、たいせいのような防災・減災への取り組みが行われているのか。ここで、今回のテーマである「砂防」という言葉が出てくる。まず、砂防の役割について、それは、「山地を荒廃から守り、また、荒廃したところを手当し、下流の町や田畑を土砂災害から守ること」であつた。そのために、砂防えん堤だ、たり、植物を生やす山腹工工事をしたりする。

先日は、実際に工事の現場へ見学に行き、今日は新しい話を聞いた。私はこういったことに興味が出てきた。

「J A B の体験楽校」というのがあつたと知り、ぜひ参加してあげたいとも思った。



砂防教室の学んだこと

3年4組 32番 樋口拓実

私は、今回の砂防教室で様々なことを学びました。その中でも特に印象に残っていることが2つあります。

まず初めに私は、砂防というものの成り立ちのような役割を担、っているのかを理解していませんでした。砂防とは、山地を荒廃から守り、また、荒廃したところを手当てし、下流の町や田畑を土砂災害から守ることです。そして、土砂の流出を防ぐために、溪流を安定させ、侵食力を分散させることや、裸地に植生を導入し、緑で山腹表面を覆うことなどが施されます。しかし土砂災害といっても、様々な形態があります。崩壊した山腹や溪流の土石等が流下する土石流、地下水等が原因で地面ごと滑って移動する地すべり、傾斜度が30度以上ある土地が崩壊するがけ崩れ等がそれにあたります。その地域ごとの形態を把握し、それに合った処置をしていく必要が分かりました。

2つ目は、一方、土砂災害の起る、たどるに、土砂を戻す止め、砂防堤の役割についてです。役割にも種類があり、一つは川底の侵食を防ぐことです。複数の堰堤を使って、川の勾配を緩やかにし、土砂によって川底や川岸が削られるのを防ぎます。また、土砂を貯めて一度に大量の土砂が下流に流れるのを防ぐ方法もあります。もう一つは、山腹の崩壊や溪流の侵食を防ぐことです。土砂を貯めて河床が上がることで、斜面崩壊を防止したり、広げ、た川幅で、流れを遅くできます。こういった様々な工事方法で、土砂の流出をコントロールして、いことが分かりました。

私はこれまで、土木科で勉強したり、黒部川に近い存在であったりしながら、砂防についての知識が貧しいことを実感しました。これからは砂防について関心すること、がたくさんあると思います。今回、学んだことをもう一度、役に立てようと思います。

ご協力をいただき有り難うございました。



砂防講座で学んだこと。 3433 丸田和人

6月19日に砂防講座がありました。砂防とは山地を
荒廃から守り、また、荒廃したところを手当し、下流の
町や田畑を土砂災害から守ることです。この土砂流出を
防ぐために国土交通省がやっていることは、溪流を安定
化させ、侵食力を分散させること、裸地に植生を導入し、
緑で山腹表面を覆うことの2つです。砂防堰堤はほらっ
の働きがわかりました。1つ目は川底が掘られるのを防
ぐこと。2つ目は谷の両岸が削れるのを防ぐこと。3つ
目は出てきた土砂を一時的に貯めて調節すること。洪水
の時一時的に土を留め、洪水後に土砂が流れて元に戻る
仕組みです。ということがわかりました。砂防堰堤がな
かったら、この3つの働きがなくなり、川底や谷がくさ
れ、樹木流されてしまいます。砂防堰堤はとても大切な
ものであることがわかりました。土石流の流れる動画を
見ました。一瞬のうちに流れていき、いかに危険である
かがわかりました。土木科卒業した方からは水谷出張所
の業務について聞きました。水谷出張所での仕事はどれ
も大変なものばかりで過酷さが伝わってきました。でも
誰かがこの仕事をしなければ日本は成り立たないという
強い信念を持ってやっています。自分も強い信念を持
ってできる仕事を見つけたんです。土砂災害は3つの形
態があります。1つ目は崩壊した山腹や溪流の土石等が
流下する自然現象の土石流。2つ目は地下水等起因し
て増える自然現象であるこれに伴って移動する自然現象の地
すべり。3つ目は傾斜度が30度以上である土地が崩壊す
る自然現象のかけ崩れ。土砂災害にもたくさん種類が
あって驚きました。貴重な話が聞けてとても勉強になり
ました。

ご協力をいただき有り難うございました。